

## “天命汗錢”について

2001251017 寺澤 知美

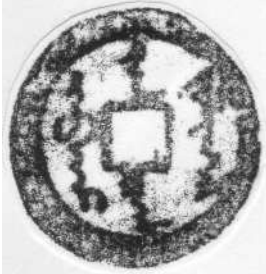


重さ： 6.0 g  
直径： 28 mm  
厚さ： 1.55 mm

管理：古代文字資料館、個人蔵

太祖ヌルハチは、1616年に年号を天命と定め、満洲文字と漢字による貨幣の鑄造を命じた。この貨幣は、そのうちの満洲文字によるものである。表面には満洲語・満洲文字（無圈点満洲文字→2）参照）によって4つの語が刻まれており、その裏面には何も刻まれていない。また、この貨幣は“天命汗錢”のほかに、“天命皇寶”とも呼ばれている。

### 1) 貨幣に刻まれた4つの語について



この貨幣に刻まれた4つの語は、「(1) 左→(2) 右→(3) 上→(4) 下」の順に読まれる。またそれぞれの読み方、意味は以下の通りである。

(1) 左 abkai



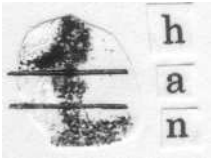
意味：“abka（天）”の属格形

(2) 右 fulingga



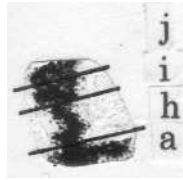
意味：① 生まれつき福のある。天命を持つ  
② 福、福運、生まれながらの運、天命

(3) 上 han



意味： 君主、帝王、陛下、汗

(4) 下 jiha



意味： 錢

## 2) 「無圈点満洲文字」と「有圈点満洲文字」について

「無圈点満洲文字」とは、明の神宗の萬曆27年（1599）、ヌルハチがエルデニ・バクシとガハイに命じ、蒙古字母を基礎として作らせた文字でのことである。それに対し「有圈点満洲文字」とは、天聰6年（1632）に太宗が達海に命じて先の満洲文字に改良を加えさせたものである。「有圈点満洲文字」では、字母の傍に圈と点を加え、同字形との音を区別し、また別に漢字音を表わす字母が創成された。（河内 1996）

例えば「無圈点満洲文字」の用いられている“天命汗錢”では、「天（属格形）」をあらわす“abkai”の“k”と、「錢」をあらわす“jiha”の“h”は、どちらも“**ᡵ**”となっている。しかし「有圈点満洲文字」の場合、それぞれ“k” = “**ᡵ**”、“h” = “**ᡵᡠ**”となり、圈の有無により音の区別がされることがわかる。

### <参考文献>

- 福田昆之編 1987 『満洲語文語辞典』FLL  
胡增益 1994 『新満漢大詞典』新疆人民出版社  
池上二良 1999 『満洲語研究』汲古書院  
河内良弘 1996 『満洲語文語文典』京都大学学術出版会  
李侠 張澍才編 1983 『遼寧錢幣』遼寧省錢幣研究小組  
李侠 曉峰 1989 『中国北方民族貨幣史』黒龍江人民出版社  
唐石父主編 2001 『中国古錢幣』